

令和4年度

第2回

代議員会

<http://shochueiken.com/>



岐阜県小中学校英語研究部会

令和5年2月24日(金)

Zoom によるオンライン会議

ミーティング ID : 983 2703 4166

ミーティング パスコード: gifu0224

第2回代議員会

令和5年2月24日(金)

*Zoom によるリモート開催

時間	内容・会場
9:30	ミーティング開始
	全体会 司会【長瀬 友洋 関市立緑ヶ丘中学校】
9:45	1 部会長あいさつ 【折戸 靖仁 岐阜市立藍川中学校】(5分)
	2 ご指導 【岐阜県教育委員会 学校支援課 武藤 広朗 様】(20分) 【岐阜教育事務所 教育支援課 武部八重子様】
	3 本年度の研究 【小学校:西脇 知史 大垣市立北小学校 】(8分) 【中学校:田中 大輔 関原市立下有知中学校】
	4 本年度の事業内容 【石黒 崇人 各務原市立蘇原中学校】(3分)
	5 予算, 旅費など 【堀部 幸嗣 坂祝町立坂祝中学校】(2分)
	6 来年度の活動 【長瀬 友洋 関市立緑ヶ丘中学校】(3分)
	7 令和5年度東濃大会 【岡田 海保 多治見市立陶都中学校】(5分)
10:30	終了 ※全体会終了後、ブレイクアウトルームで常任委員会を行います。役員の先生方はブレイクアウトルームにお入りください。

研究の報告

～目指す姿を具体的にイメージし、具現化する指導過程の在り方～

小学校研究部長 西脇 知史(大垣市立北小学校)

令和元年度に、「Let's Try! 伝え合う活動部会」として、小学校3・4学年で使用する外国語活動の副教材である Let's Try!の指導案検討を行う部会を立ち上げた。これまで小学校部会で大切にしてきた「考えながら話す」場を意図的に設定するという考え方を引き継ぎ、児童にとって効果的な指導過程の在り方について検討を行った。

令和2年度は、新学習指導要領全面実施の年となり、高学年では教科としての英語の授業が始まった。現在、岐阜県内では地区により異なる教科書を採択しており、県内で使用する3社ともに研究することが望ましいが、研究員や研究協議員の先生方の勤務地域から東京書籍の NEW HORIZON Elementary を取り上げて研究することとした。(ただし、扱う単元はその他2社と題材が同じものとした。)

そして令和3年度は、前年度までに作成した指導案を土台に、指導計画の改善を行った。小学校においては、英語が専門ではない教員が指導者であることも多くあると考えられたため、指示の出し方や活動方法、視覚教材やワークシートの扱い方など詳しく表記した指導案を作成した。また、ICT の活用方法や適切な評価の在り方について、効果的な指導方法を検討した。

令和4年度	小学校部会	
資料	・単元や授業を構想する際のポイントの明確化 ・抽出単元の単元指導計画および児童用ワークシート、パフォーマンステストなどの実践例	
	小学校英語単元作成の流れ作成チーム	Here we go! / Blue sky 単元指導計画作成チーム
研究	英語授業の流れ(教科書の扱い方)例 指導過程ごとの手立て例	到達させたい具体的な姿のイメージ化 目指す姿にせまる指導過程の在り方

小学校高学年で外国語科が全面实施され、各社の教科書を使うようになって2年が経過した。様々な実践を通して、目指す姿にせまる指導過程の在り方を工夫した指導案を検討すると、導入、展開、終末それぞれの指導過程において、ポイントとなることや配慮するとよいことが、どの単元や単位時間でも共通していることが分かる。そこで、本年度は、各単元や授業の指導過程ごとで大切にしたい手立てを検討してまとめることとした。このことは、英語が専門ではない教員が単元や授業を構想することを想定し、ポイントになることを明確にすることを意図した。また、New Horizon(東京書籍)以外、他の2社の教科書について、昨年度までに作成した指導案を土台に、指導計画の検討を行った。引き続き、指示の出し方や活動方法について分かりやすい指導案になるよう検討した。視覚教材やワークシートの扱い方、ICT の効果的な活用方法、適切な評価の在り方についても、よりよい指導方法を提案できるようにした。

研究内容(1) 授業の指導過程ごとにおける手立ての工夫について

指導計画や指導案を作成するために、どのような意図や考えをもって、どのような思考の過程を経て、どのような手立てを工夫するとよいかまとめるようにした。どの単元でも共通して言える作り方のポイント、単元の導入における活動例と指導例、さらに聞く活動における指導例と語彙のインプットに使えるゲーム集を作成した。

研究内容(2) 分かりやすさと再現しやすさを大切にした指導計画の作成

単元前半では指導者からのインプット場面が多くなるが、終末に近づくにつれ、児童のアウトプットが多くなる。終末の活動に向けてどのように力をつけていけばよいのか、指導者が具体的にイメージできるよう、指導者の発話例や指導の留意点等もできるだけ詳しく書き入れた指導計画を作成した。また、単元終末で使用するワークシートも作成した。

研究内容(3) 目指す姿の到達を実感させる評価の在り方

各単位時間の「まとめ(振り返り)」において、内容面の振り返りができるようにし、児童がやり取りをして分かったことや、本時の課題が解決できたかどうか確かめることができるようにした。また、単元終末にはパフォーマンステストを位置付け、評価できるようにした。パフォーマンステストは評価用紙とともに掲載した。

本年度の研究を振り返って

成果と課題

- 英語が専門ではない教員が、単元作成の流れを考える際、教科書のどの場面を使って指導事項を身に付けさせていくとよいか、その流れの例を示すことで、単位時間ごと大切にしたいことや手立ての工夫を整理することができた。
- これまで取り扱ってこなかった教科書会社の主な単元についても、貫く課題を設定し、終末の姿を明確にして指導に当たることができるようにした。各単位時間における児童の発話例だけでなく、指導者の発話例や指導の留意点等をできるだけ分かりやすく書き入れた指導案を作成することができた。
- 本年度取り上げた教科書単元の指導計画について、「単元作成の流れ」でポイントだと考えた指導上の留意点が、実際の授業での指導と合っているか検証していく必要がある。
- 単元を通してつけたい力を確かめるパフォーマンステストについて、ICTの効果的な活用も含めてさらに検討していく。

研究の報告

Pursuing meanings

中学校研究部長 田中大輔（関市立下有知中学校）

令和4年度は、Communicative Activity 部会とテスト作成部会では、以下のことに取り組んだ。

[Communicative Activity 部会]

NEW HORIZON	NEW CROWN
<ul style="list-style-type: none"> ・1年生 Unit6～11 の『指導と評価の計画』作成 ・全 Stage Activity の『指導と評価の計画』作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生 Project の『指導と評価の計画』作成 ・2年生全 Lesson の『指導と評価の計画』作成

[テスト作成部会]

NEW HORIZON
<ul style="list-style-type: none"> ・「聞くこと」「読むこと」「書くこと」における『知識・技能』と『思考・判断・表現』の問題作成 ・学習到達目標と記録に残す評価を Ways.62 の提案とは違う領域や内容のまとまりでの提案

I 令和4年度の研究内容

[Communicative Activity 部会]

(1) 単位時間の役割について

どのような過程で指導すると、生徒が付けたい力を身に付けることができるのか示すことを目的とし、単位時間における役割を『指導と評価の計画』に記載した。

指導内容	『指導と評価の計画』記載の文言
(1) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを把握し、 学習の見通しをもつ	学習の見通しをもつ時間
(2) 意味のある文脈の中で、英語の特徴やきまりに 気付き、理解する	気付き、理解する時間
(3) 考えや情報などを 整理し、表現する	整理し、表現する時間
(4) 内容と構成を 再構築し、表現を改善する	再構築し、表現を改善する時間
(5) 学んだことを再び言語活動で 活用し、学習を振り返る	活用し、学習を振り返る時間

Stage Activity / Project における第1時は「気付き、理解する時間」とした。ただしこの「気付き、理解する時間」には、「学習の見通しをもつ時間」という役割を含んだものとしている。

(2) 『指導と評価の計画』前文「4言語活動における主な留意点」について

(例) 4 言語活動における主な留意点

1	対話活動をする中で、表現の幅を広げていくこと→第4時
2	聞き手に伝わりやすい表現を使ったり、例示を出しながら具体的に伝えたりすること
3	マッピングをもとにして、対話活動をする中で、文章構成や内容を再構築すること

単元を通して指導する際に留意する点について示すようにした。また単位時間が限定される際は、「第〇時」と記し、指導の際に意識できるようにした。

(3) Stage Activity/ Project における『指導と評価の計画』

指導と評価の計画

【作成者: 関市立下有知中学校 田中 大輔】

単元名

第2学年 NEW CROWN
Project2

内容のまとめ

「話すこと [発表]」イ

指導の根拠

・「内容のまとめ」とは、学習指導要領に示す各教科等の「第2 各学年の目標及び内容」のいずれかを示すものである。

1 「話すこと [発表]」における第2学年の目標

日常的な話題や社会的な話題について、自分の経験や他教科等で学習したことに基づいた事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、その理由なども踏まえて、まとまりのある内容になるように構成を工夫しながら話すことができる。

今年度作成した学習到達目標から抜粋している。

2 Project2の目標

修学旅行で日本を訪れる計画をしている海外の学校の趣味趣向に合った修学旅行プランを提案するために、food, sightseeing, cultural activities の、いずれかについて根拠を明確にして話すことができる。

内容面

・言語活動を行う目的・場面・状況を文言の中に記載している。

3 Project2の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・比較級や不定詞の特徴やきまり等、提案するための表現を理解している。 ・相手の趣味趣向を確認したり強調したりしながら、提案する技能を身に付けている。	修学旅行で日本を訪れる計画をしている海外の学校が気に入るプランを提案するために、food, sightseeing, cultural activities の3観点を基に提案内容を整理することで根拠を明確にし、趣味趣向に合った修学旅行プランを提案している。	修学旅行で日本を訪れる計画をしている海外の学校が気に入るプランを提案するために、food, sightseeing, cultural activities の3観点を基に提案内容を整理することで根拠を明確にし、趣味趣向に合った修学旅行プランを提案しようとしている。

4 言語活動における主な留意点

- 1 根拠となり得るものは主観のみではなく、客観的な事実も含むこと
- 2 聞き手の反応を見て、提案内容を付け加えたり削ったりすること
- 3 画像の選択のみではなく、どのタイミングで画像を提示すると有効か考えること

留意点

・生徒に付けたい力を明確にした上で、単元を通して指導する際に、留意する点を記述している。

5 展開案を含む指導計画

時間	主な言語活動	備考	知	思	態
1 (気付き、理解する時間)	<p>■3つの修学旅行プランを読み、マークたちのグループの提案を理解する活動を通して、プランと提案のつながりを理解し、自分ならどの場所で何の活動を提案するのか話すことができる。</p> <p>①Small Talk：Where do you want to travel in winter? ②1.Read,2.Listen を行う。 ③新出単語の練習， p.90 Tips for Writing の音読を行う。 ④3.Think & Talk を行う。</p>	<p>●②において、提案内容が各学校の求めているどの点とつながっているのか指導する。また、画像を提示するタイミングについては、相手に質問を投げかけた後や、画像提示後に相手に質問することが効果的であると指導する。</p> <p>◆④において、提案内容が最も相手に伝わる画像を選択するよう指導する。また、ロイロノートで提案内容を共有し、思考の足場とする。</p>			
2 (整理し、表現する時間)	<p>■修学旅行プランを提案する活動を通して、相手の活動したい内容について確認したり、強調したりすることが有効であると気付き、相手の趣味趣向に合わせた修学旅行プランについて話すことができる。</p> <p>①Small Talk: Where do you want to travel in Gifu in winter? ②Model Dialog で、相手の趣味趣向について確認したり強調したりするプレゼンを聞く。 ③メモを基にペアで修学旅行プランについて交流をする。 ④相手の趣味趣向に合わせたプランだと伝わる内容や伝え方になっているか互いに評価する。 ⑤伝える内容や伝え方を改めて整理し、交流する。</p>	<p>●②において、相手の趣味趣向について何と言って確認しているのか、またどの言葉を、なぜ強調して伝えているのかということを生徒に投げかけることで、本単元で身に付けさせたい技能を指導する。</p> <p>◆③において、ロイロノートでメモを交流することで、互いの考えを理解できるようにする。</p> <p>◆⑤において、ロイロノートを活用し、自分の考えを改めて整理する。</p>			
3 (再構築し、表現を改善する時間)	<p>■修学旅行プランについて交流することを通して、改めて相手の趣味趣向に合っている内容か、伝えたい内容が伝わる表現方法が見直すことで、聞き手の理解を確かめ表現内容をかえたり、画像を出すタイミングを工夫したりすることが有効であると気付き、修学旅行プランについて話すことができる。</p> <p>①Model Dialog を聞き、自分なら何をアドバイスするか全体交流をする。 ②学習活動①で確認した視点で改めて自分のプランを見直す。 ③抽出生徒がプレゼンテーションを行う。 ④グループでプレゼンテーションを行う。 ⑤企画書を書きまとめる。</p>	<p>●①において、相手の反応を見て、表現を言い換えたり、伝わりやすい言葉を使用したりする場面のある Model Dialog を行うことで、その場で考えて相手に伝わる表現を使用することも、プレゼンテーションにおいて大切なポイントであることを指導する。</p> <p>●②において、相手の趣味趣向に合ったものになっているか、相手に伝えるために強調したり画像を示したりするポイントは適切かという視点を明らかにする。</p> <p>◆③において、抽出生徒のメモをロイロノートで共有することで、発話内容を理解できるようにする。</p>			

記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確認に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけに十分な留意する。

4 【展開案】 (活用し、 学習を振り返る時間)	<p>■ALTの先生に冬休み中の県内日帰り旅行を提案する活動を通して、相手の趣味趣向に合った内容で、その内容が伝わるような話し方をする事を理解し、ALTの先生に合った県内日帰り旅行プランを提案することができる。</p> <p>①ALTから冬休み中に県内日帰り旅行を予定していることを聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">Let's suggest trip plan to our ALT!</div> <p>②ALTの先生に質問をし、情報を聞くことで、提案内容を決定する。</p> <p>③ペアで対話をしながら、伝えたい内容を整理する。</p> <p>④抽出生徒がALTの先生に、旅行プランを提案する。</p> <p>⑤抽出生徒の発話内容や表現技能から、自分に取り入れ、再構築する。</p> <p>⑥ペアで対話をする。</p> <p>⑦全体交流をする。</p> <p>⑧企画書を書きまとめる。</p>	<p>●②において、生徒が質問した内容におけるALTの返答を板書し、生徒が提案内容を考える際に活用できるようにする。また板書を撮影し生徒のタブレットに送ることで、伝えたい内容を整理できるようにする。</p> <p>●④において、相手の趣味趣向に合ったものになっているか、相手に伝えるために強調したり画像を示したりするポイントは適切かという視点を明らかにする。前時行った活動と目的が同じであることも指導する。</p> <p>◆④において、抽出生徒のメモをロイロノートで共有することで、発話内容を理解できるようにする。</p> <p>◆⑦において、ロイロノートで生徒の英文を共有することで、仲間の表現内容を参考にできるようにする。</p>							
	<p>“Chao” in Takayama is famous for skiing resort. I heard you and your family like winter sports. It has many kinds of course so you can choose. After skiing, you can go to “Nigorigo spa”. I think it's the best place to visit for you and your family. Please enjoy there.</p>	<p>・ロイロノートは、学習支援ツールのことである。各市町によって、名称が異なる。</p> <p>・到達させたい生徒の姿として具体的に英文で記述している。</p>							
後日	ペーパーテスト (単元テスト)								

(注) 「5 展開案を含む単元指導計画」における「■、◆、・、●」について

■…ねらい ◆…ICTの活用 「・」…指導上の留意点 ●…小学校における学習内容とのつながり (1年生のみ)

・『指導と評価の計画』の下に、それぞれの記号が示す意味を記している。

(4) 目的・場面・状況の設定について

目的・場面・状況の設定には、目的意識と相手意識の2つの要素を含むものとした。

目的意識・相手意識が不十分なもの	目的意識・相手意識を含むもの
ALTの先生に関市を知ってもらうために、関市の名所を紹介しよう。	日本食が好きなALTの先生が、休日に「行ってみよう」と思うような関市の名所を紹介しよう。

生徒が言語活動に取り組むことができることを目的とし、このように目的・場面・状況を設定した。

[テスト作成部会]

(1) テスト作成にあたって

	聞く	読む	話す [やり取り]	話す [発表]	書く
知識・技能	単元/中間/期末テスト	単元/中間/期末テスト	パフォーマンステスト 単元における言語活動	パフォーマンステスト 単元における言語活動	パフォーマンステスト 単元/中間/期末テスト 単元における言語活動
	①	⑤	⑨	⑪	⑬
思考・判断・表現	パフォーマンステスト 単元/中間/期末テスト	パフォーマンステスト 単元/中間/期末テスト	パフォーマンステスト 単元における言語活動	パフォーマンステスト 単元における言語活動	パフォーマンステスト 単元/中間/期末テスト 単元における言語活動
	②③④	⑥⑦⑧	⑩	⑫	⑭
主体的に学習に 取り組む態度	パフォーマンステスト 単元における言語活動	パフォーマンステスト 単元における言語活動	パフォーマンステスト 単元における言語活動	パフォーマンステスト 単元における言語活動	パフォーマンステスト 単元における言語活動 単元/中間/期末テスト
	言語活動で 表出された態度	言語活動で 表出された態度	言語活動で 表出された態度	言語活動で 表出された態度	言語活動で 表出された態度

- ・「聞くこと」は、日常的・社会的な話題について、①「話されている英語の意味そのもの」の理解、②「必要な情報を聞き取る」、③「概要を捉える」、④「要点を捉える」の4つの視点をもって問題作成及び評価をする。
- ・「読むこと」は、日常的・社会的な話題について、⑤「書かれている英語の意味そのもの」の理解、⑥「必要な情報を読み取る」、⑦「概要を捉える」、⑧「要点を捉える」の4つの視点をもって問題作成及び評価をする。
- ・「話すこと [やり取り]」は、「即興で伝え合う」「相手の質問に答える」「自分の考えや気持ちを伝え合う」の3つの視点をもって問題を作成し、生徒の⑨「英語使用の正確さ」(どのように表現したか)、⑩「表現内容の適切さ」(どんなことを表現したか)で評価する。
- ・「話すこと [発表]」は、「即興で話す」「相手の質問に答える」「自分の考えや気持ちを伝え合う」の3つの視点をもって問題を作成し、生徒の⑪「英語使用の正確さ」(どのように表現したか)、⑫「表現内容の適切さ」(どんなことを表現したか)で評価する。
- ・「書くこと」は、「正確に書く」「まとまりのある文章を書く」「考えたことや感じたことと、その理由を書く」の3つの視点をもって問題を作成し、生徒の⑬「英語使用の正確さ」(どのように表現したか)、⑭「表現内容の適切さ」(どんなことを表現したか)で評価する。

表の太い線で囲った部分について、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の「知識・技能」と「思考・判断・表現」の問題を作成した。

(2) テスト作成における考え方

① 「知識・技能」の問題について

主としてターゲットとなる英文を聞き取ったり読み取ったりすることを意図した問題を作成する。必ずしも目的・場面・状況の設定は必要ではない。

書くことについては、表現する内容が規定されている問題を作成する。

「聞くこと」「知識・技能」の問題

New Horizon 1年生1学期 期末テスト

【作成者:大垣市立星和中学校 後藤 健一[問題1]】

【作成者:関市立下有知中学校 田中 大輔[問題2]】

<問題作成時における考え方>

【聞くことにおける知識・技能問題の作成について】

ターゲットとなる文法を使った文の聞き取りが主になるように聞き取る問題を作成します。目的・場面・状況の設定は必ずしも必要ではありません。

【問題1】

これから放送する英語の対話文を聞いて、質問に対する答えとして最も適しているものを1~4の中から1つ選びなさい。

(1) (友達同士の会話で)

1 I got it last April. 2 I go to school by bicycle. 3 The black one is. 4 I like your bicycle.

<スクリプト>

(1) Man: My bicycle is over there.

Woman: I see two bicycles. Which one is yours?

(2) ...

<解答> (1) 3 (2) ...

【問題作成の意図】

[知識] which や whose などの疑問詞で始まる疑問文の意味や構造を理解している。

[技能] 疑問詞で始まる疑問文の意味や構造の理解を基に、日常的な話題の対話を聞き取る技能を身に付けている。

質問文に使われる疑問詞から判断して、正しい応答文が選択できるか判断する問題で、知識・技能を測る。

【問題作成の意図】を記載することにより、汎用性のある問題提案を行えるよう意図している。

②思考・判断・表現の問題について

必要な情報、概要、要点を捉えられるかどうか評価する問題を作成する。単元等で扱った言語材料を必ずしも使用する必要はない。「目的・場面・状況」を提示する。

「聞くこと」『思考・判断・表現』の問題

New Horizon 1年生1学期 期末テスト

【作成者:大垣市立星和中学校 後藤 健一[問題1]】

【作成者:関市立下有知中学校 田中 大輔[問題2]】

<問題作成時における考え方>

【聞くこと『思考・判断・表現』を測る問題の作成について】

必要な情報、概要、要点を捉えられるかどうか評価する問題を作成する。単元等で扱った言語材料を必ずしも使用する必要はありません。「目的・場面・状況」を提示するようにします。

【問題1】

あなたは問題文中の（ ）内の場所にいます。アナウンスが聞こえてくるので、何について話されているのかを聞き取り、ア～ウの中から適するものを1つ選びなさい。

(1) (あなたはデパートにいます)

ア 開催中のセールについて イ 特別展示について ウ 新しい売り場について

(2) …

<スクリプト>

(1) Thank you for visiting Mago today. We are having sales this week. You can get all the clothes and caps at half the price. Also, you can get new bags and suitcases at WORLD's at special prices.

(2) …

<解答>

(1) ア

【問題作成の意図】

【思・判・表】どんなお知らせがあるかを把握するために、店などのアナウンスを聞いて、概要を捉えている。

アナウンス全体を聞いて、何について話されているのかを捉える。細かな情報を捉えるのではなく、全体として話されている話題を捉える問題なので、未習の言語材料が含まれてもよいことにする。

<聞き取ること(捉えること)及び設定し得る状況>

必要な情報	アナウンス、ラジオやテレビの放送等
概要	授業、講演、アナウンス、動画、対話、電話の会話等
要点	ボイスメモ、スピーチ、ディスカッション、ディベート等

「読むこと」『思考・判断・表現』の問題

New Horizon 3年生I学期 期末テスト

【作成者:大垣市立星和中学校 後藤 健一[問題1]】

【作成者:関市立下有知中学校 田中 大輔[問題2]】

<問題作成時における考え方>

【読むこと『思考・判断・表現』を測る問題の作成について】

英文を読んで、必要な情報、概要、要点を捉える問題を作成します。単元等で扱った言語材料を必ずしも使用する必要はありません。「目的・場面・状況」を指示文や問題文の中に示します。

【問題1】

あなたは動物園を訪れています。来週も訪れる予定ですが、現在、その動物園で特別なイベントを行っているかホームページで確認をしているところです。来週訪れる時にできることをア～カの中から2つ選びなさい。

NEWS(Monday, May 5)

We are planning a new event now. You can see some cute and interesting animals at the event. Now we are telling about it on this website. Leo, a female lion, had two babies on April 28. We will tell you on this website next week when we can show them. Please look forward to meeting them in two or three weeks. Dumbo, an elephant, also had a baby elephant. You can see Dumbo and her baby from this Saturday.

Three kinds of new animals are coming to the World Zoo this week. One is a spider monkey. It has long arms and legs like a spider. Another is a blue monkey. It has long arms and legs like a spider. It is one of the most unique monkeys, but the baby color is not blue. The other is a white tiger. It is only four months old. You can see the spider monkey from May 10, the blue monkey from May 20, and the white tiger from May 25.

We are looking forward to seeing you at this event.

【問題作成の意図】

【思・判・表】旅行で訪れる場所の知識を得るために、パンフレットや記事などを読んで自分の必要な情報を捉えている。

必要な情報を捉える問題では、指示文で読み手が求めている情報を示してから、それに合った英文を読み取ることができるかどうか評価する問題を作成した。

<読み取ること(捉えること)及び設定し得る状況>

必要な情報	広告、パンフレット、予定表、手紙、電子メール、メモ、新聞や雑誌の情報欄、ウェブサイト、掲示、書籍、取扱説明書等
概要	日記、SNS、ニュース原稿、対話を記録したもの、時系列で書かれた短い説明、意見文、エッセイ、物語等
要点	スピーチ原稿、ディベート原稿、レポート、SNS、社会的な話題に対する説明文、意見文、手紙、電子メール等

上にある表を参考として、目的・場面・状況を設定し、問題作成を行った。

(3) 記録に残す評価について

Ways.62において、『指導と評価の計画』と「記録に残す評価」における内容のまとまりが○や★のものについてWays.63で一致するものを提案した。

NEW HORIZON

◎全て一致 ○領域一致 ★不一致

学年	Unit	内容のまとまり		
1	Unit0 welcome to Junior High School	指導と評価の計画	記録に残す評価	
	Unit1 New School, New Friends	話すこと[やり取り]ア	話すこと[やり取り]ア	◎
	Unit2 Our New Teacher	話すこと[やり取り]ア	話すこと[やり取り]ア	◎
	Unit3 Club Activities	話すこと[やり取り]ア	話すこと[やり取り]イ	○
	Unit4 Friends in New Zealand	話すこと[やり取り]ア	話すこと[やり取り]イ	○
	Unit5 A Japanese Festival	話すこと[発表]イ	話すこと[発表]イ	◎
	Unit6 A Speech about My Brother	話すこと[発表]イ	話すこと[やり取り]イ	○
	Unit7 Foreign Artists in Japan	話すこと[やり取り]イ	話すこと[やり取り]イ	◎
	Unit8 A Surprise Party	話すこと[発表]イ	話すこと[やり取り]イ	○
	Unit9 Think Globally, Act Locally	書くこと ア	話すこと[やり取り]イ	★
	Unit10 Winter Vacation	話すこと[発表]ア	話すこと[やり取り]イ	○
Unit11 This Year's Memories	書くこと イ	話すこと[やり取り]ア	★	
学年	Unit	内容のまとまり		
2	Unit0 My Spring Vacation	指導と評価の計画	記録に残す評価	
	Unit1 A Trip to Singapore	話すこと[やり取り]イ	話すこと[やり取り]イ	◎
	Unit2 Food Travels around the World	書くこと イ	書くこと イ	◎
	Unit3 My Future Job	話すこと[発表]イ	話すこと[発表]イ	◎
	Unit4 Homestay in the United States	話すこと[やり取り]イ	話すこと[やり取り]イ	◎
	Unit5 Universal Design	話すこと[発表]イ	話すこと[発表]イ	◎
	Unit6 Research Your Topic	話すこと[発表]イ	話すこと[やり取り]イ	○
	Unit7 World Heritage Sites	話すこと[発表]イ	話すこと[発表] ア	○
学年	Unit	内容のまとまり		
3	Unit0 Three Interesting Facts about Languages	指導と評価の計画	記録に残す評価	
	Unit1 Sports for Everyone	話すこと[発表]ア	話すこと[やり取り]ア	○
	Unit2 Haiku in English	話すこと[やり取り]ア	話すこと[やり取り]イ	○
	Unit3 Animals on the Red List	書くこと ウ	書くこと イ	○
	Unit4 Be Prepared and Work Together	話すこと[やり取り]ウ	話すこと[発表]ウ	○
	Unit5 A Legacy for Peace	話すこと[発表]ウ	話すこと[発表]ウ	◎
	Unit6 Beyond Borders	話すこと[発表]ウ	話すこと[発表]ウ	◎

単元における内容のまとまりは、指導者や学校の実態によっても捉え方が違って来る。そのため、Waysを参考にして、各学校で指導することの一助となるように、Ways.62, 63で提案するようにしている。

2 本年度の研究における成果と課題

[Communicative Activity 部会]

- 単位時間の役割を明確にすることによって、生徒が身に付けたい力を付けるための指導過程を明確にすることができた。
- 指導する際の留意点を示すことによって、単元で身に付けたい力を明確にした上で、指導に当たることができるよう提案をすることができた。

[テスト作成部会]

- 「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点で定期テストを作成することにより、具体的な問題や問題作成における考え方を提案することができた。
- 学習到達目標を作成することによって、単元で身に付けたい力を明らかにして指導計画の提案をすることができた。

[Communicative Activity 部会]

- 評価方法について記載していくことで、「指導と評価の一体化」を図る。
- ICTの活用における具体を提案し、各学校の先生方が実践しやすいものにする。

[テスト作成部会]

- 「思考・判断・表現」の問題におけるバリエーションを増やして提案することで、各学校の先生が参考にできる Ways を作成する。
- 学習到達目標と各単元におけるつながりをより明確にすることで、「指導と評価の一体化」を図る。

3 令和5年度の方向について

[Communicative Activity 部会]

NEW HORIZON	NEW CROWN
<ul style="list-style-type: none">・ICT活用事例の具体を示す。・1～3年生全 Unit において、評価方法を明記した『指導と評価の計画』を作成する。 ※必要に応じて『指導と評価の計画』改良を行う。	<ul style="list-style-type: none">・2年生全ての Project における『指導と評価の計画』を作成する。・3年生全ての Lesson の『指導と評価の計画』を作成する。

[テスト作成部会]

NEW HORIZON	NEW CROWN
<ul style="list-style-type: none">・2学期期末テストを作成する。・学習到達目標と各学年の各単元におけるつながりを明確にする。 ※必要に応じて『指導と評価の計画』改良を行う。	

【岐阜県小中英研 on the WEB ~<http://shochueiken.com/>~】

- ・『指導と評価の計画』の枠（最新版）掲載

事業部活動報告

文責 事業部長 石黒 崇人

1. 令和4年度活動方針

◎岐阜県小中学校英語研究部会事業部の活動を創造的・発展的に推進する

1. 令和4年度の岐阜県中学校英語弁論大会及び中学校英語スピーチコンテスト(地区大会)が円滑に進行できるよう企画・運営していく。
※場合によっては、スピーチ審査会の計画及び開催
2. 教科書準拠のワークブックを現場の声や新学習指導要領の内容を踏まえ、特色ある岐阜県版にしていく。
3. 各郡市の代議員との連携を深め、事業部の活動へ生かしていく。

2. 高円宮杯第74回全日本中学校英語弁論大会(全国大会参加対象者)の報告

地区	学校名	氏名	高円宮杯結果
飛騨	高山市立中山中学校	山崎 麻央	
可茂	可児市立東可児中学校	伊藤 璃胡	中央大会決勝進出
飛騨	高山市立国府中学校	吉永 梨乃	

3. 第42回岐阜県中学校英語弁論大会を振り返って

(1) 地区大会の参加状況

地区名	岐阜	西濃	美濃	可茂	東濃	飛騨	合計
参加人数	85	51	38	39	62	40	315
参加校	38	23	19	19	30	19	148
県大会出場者	8	5	4	3	6	4	30

(2) 県大会当日の主な日程

時間(目安)	セミファイナルの流れ
【午前の部】	
8:30~8:50	○実行委員及び審査員集合 (小中英研関係者, 県教育委員会, 読売新聞, ALT)
9:00~9:20	○実行委員打合せ / 大会を始めるにあたり ・部会長あいさつ ・大会長あいさつ(審査員の紹介) ・読売新聞あいさつ(岐阜支局長 三戸 慶太 様) ・審査の流れについて(事業部長)
9:30~10:00	○生徒受付開始
10:00~10:00	○開会式
10:10~11:20	○セミファイナル開始(進行:常任委員) ・グループ A~E に分かれてセミファイナルを行う。
【午後の部】	
11:20~11:50	○ファイナル(審査:県教育委員会, 教頭先生, ALT) ・最優秀賞 / 優秀賞 / 岐阜県小中英語研究部会賞
12:10~12:20	○表彰式・閉会式
12:50~	○大会を終えて(司会:事業副部長) ・部会長より ・諸連絡(事業部長)

(3) 入賞者氏名

賞	地区	学校名	氏名	スピーチタイトル
最優秀賞	飛騨	高山市立中山中学校	山崎 麻央	Why I Admire my Father
優秀賞	可茂	可児市立東可児中学校	伊藤 璃胡	What is Normal?
	飛騨	高山市立国府中学校	吉永 梨乃	Bridges between Colors
特別表彰 (2年連続)	岐阜	岐阜大学教育学部附属小中学校	渡邊 美咲	With Warm Hearts
	岐阜	本巣市立糸貫中学校	笠井 詞葉	The Sound of One Hand Clapping
	飛騨	高山市立日枝中学校	吉村 賢哉	The Power of Connection

(4) 参加生徒の感想

・今回僕は、高円宮杯に出場するのは初でした。とても緊張しましたし、文を覚えることもとても大変でした。高円宮杯に出た感想としては、初めてのことで、右も左も分からなくて困っていましたが、なんとか先生方のおかげで助かりました。次回もチャンスはあると思いますが、今回は、自分の全力を出し切れたと思います。ありがとうございました。

(高山市立中山中学校 山崎 麻央 さん)

・まさかファイナルまでいけると思っていませんでした。スピーチをしているときはもちろん、終わった今でもすごく緊張しています。ここまでこられたのは、家族、先生、応援してくれた友達、そして、協力してくれたすべてのみなさんのおかげです。すごく不安だったけど、楽しかったです。いい経験になりました。ありがとうございました。

(可児市立東可児中学校 伊藤 璃胡 さん)

・スピーチコンテストには、初めて参加しました。夏休み中もほとんど毎日学校に来て練習してきたので、ここまでこれてすごく嬉しいし、今まで支えてくださった先生方に感謝したいです。あと、参加している中学生のスピーチを聞いて、とても勉強になったし、自分もすごく成長できたと思うので、これからも英語に関心をもって取り組んでいきたいです。この経験を生かして、英語が上達できるように頑張りたいです。このスピーチコンテストがきっかけで、「英語スピーチやってみよう。」と言ってくれた友達がいたので、これからもたくさんの人に影響を与えられる人になりたいです。すごくいい経験になりました。ありがとうございました。

(高山市立国府中学校 吉永 梨乃 さん)

4. 令和5年度に向けて

今回、岐阜県教育委員会より武藤先生、部会長折戸校長、大会長後藤校長より御指導をいただき、参集型の大会を開催することができました。ありがとうございました。

今年度は、参加申込書と同時に動画を提出していただいたり、スピーチ原稿集や申込関係書類をデジタル化したりと、これまでの手続きをスムーズかつ簡易的なものにしました。これにより、運営側と参加側とが負担なく進めることができました。また、これらのシステム構築のために地区大会で実施し、有効なものであることを確認できました。何年ぶりの参集型の開催ということで、課題点や確認事項などがありましたので、事業部で検討していき、来年度につなげていきたいと考えています。

最後に、各地区大会及び県大会でお手伝いいただいた先生方、ありがとうございました。新たな開催方法に柔軟に対応していただいたおかげで、無事に大会を終えることができました。今後に向けても、誰にとっても分かりやすいスピーチコンテストになるようにしていきたいと思っています。

5. 令和5年度スピーチコンテスト地区大会について【開催予定日】

地区	日時	会場	地区	日時	会場
岐阜	8月18日(金)	岐阜県総合教育センター、OKBふれあい会館	可茂	8月21日(月)	広見地区センター
西濃	8月17日(木)	大垣市サイトピアセンター	東濃	8月18日(金)	瑞浪市総合文化センター
美濃	8月17日(木)	武芸川中学校、武芸川生涯学習センター	飛騨	8月18日(金)	高山市教育研究所、一之宮公民館

6. 令和5年度の事業部の主な活動内容(予定)

- ・中学生英語スピーチコンテスト地区大会及び県大会の準備・運営
- ・岐阜県版ワークブックの採用状況の確認・採用の依頼
- ・岐阜県版ワークブックに関する意見交流 ⇒ 事業部での分析

令和4年度 収支決算書

岐阜県小中学校教育研究会 小中学校英語研究部会

主務者 長瀬 友洋

監事 白橋 茂樹 橋本 文洋

会計 堀部 幸嗣

◆収入の部

科目	金額	内訳
会費	598,300	¥620×965名
県費補助金	20,000	助成金
前年度繰越金	130	
計	618,430	

◆支出の部

科目	金額	内訳	
研究大会	報償金		
	会議費		
	旅費		
	消耗品費		
	印刷製本費		
	通信費		
	使用料及賃借料		
研究調査	報償金		
	会議費		
	旅費		
	消耗品費	83,808	インク代、用紙代
	通信費	1,320	振込手数料
	使用料及賃借料	59,190	会場使用料
	分担金	10,000	全英連分担金
	図書購入費		
成果刊行	消耗品費		
	印刷製本費	446,512	Ways of Teaching English
	通信費	17,600	Ways of Teaching English配送料
予備費			
計	618,430		

◆収支の部

収入	支出	収支
618,430	618,430	0

◆収入の部

科目	金額	内 訳
会 費	598,300	¥620×965名
県費補助金	100,000	助成金
前年度繰越金	0	
計	698,300	

◆支出の部

科目	金額	内 訳	
研究大会	報償金		
	会議費		
	旅費		
	消耗品費		
	印刷製本費	100,000	
	通信費		
	使用料及賃借料		
研究調査	報償金		
	会議費		
	旅費		
	消耗品費	88,300	インク代、用紙代
	通信費		
	使用料及賃借料	50,000	会場使用料
	分担金	10,000	全英連分担金
	図書購入費		
成果刊行	消耗品費		
	印刷製本費	430,000	Ways of Teaching English
	通信費	20,000	Ways of Teaching English配送料
予備費			
計	698,300		

◆収支の部

収入	支出	収支
698,300	698,300	0

研究部・事業部の成果と来年度の活動計画案

主務:長瀬 友洋(関市立緑ヶ丘中学校)

【令和4年度の研究テーマ】

「できた・わかった」を実感しながら、
コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて
～五領域における学習到達目標を明らかにし、
言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の一体化～

はじめに

コロナ禍になり、3年が経過した。学校の教育活動では、制限されていた活動が、以前とは形を変えながら再開された。2年前、様々な会議がなくなる中、人数を絞って研究討議を続けてきた。これまで築いてきた岐阜県小中英研の成果を、何とか繋いでいきたいという思いが Ways の完成に導いたと感じている。昨年度は、Zoom の契約や顧問会計士との契約などコロナ禍だったからこそ行えた改革もあった。その結果、年間2回ある代議員会はリモートでの開催が可能となった。また、岐阜県小中学校英語研究部会飛騨大会もリモート開催するなど大きな発表でも活用が可能となり、より多くの方に参加していただけるようになった。

このように、岐阜県小中英研でもこれまでの活動を見直し、形を変えながら、今年度はコロナ禍前と比較しても遜色ない活動を行うことができた。

研究部の活動では、Ways 作成に向け研究協議員会を4回実施した。「初任者や英語が専門ではない先生方にも分かりやすく、授業作成のヒントになる Ways」を目指し、単元や授業の構想の根幹になる部分に焦点を当てて討議を進めてきた。また、本年度は、記録に残す評価部会で定期テストの問題についても討議を行い、知識・技能や思考力・判断力・表現力など観点別に問題例を作成し Ways に掲載した。

事業部では、参集型のスピーチコンテストを実施するために、これまでの実施方法を見直し、実現することができた。参加生徒へのフィードバック方法など課題については、来年度以降改善を図っていきたい。また、岐阜県版のワークブックの作成についても、昨年度新しくなった NEW APPROAWCH で見直しを行った。さらに、単元テストなどで使用可能となっている「絶対評価プリント」についても岐阜県版を作成した。

詳細について、以下に記す。

I 研究部の活動

小学校部会

小学校高学年で外国語科が全面実施され、各社の教科書を使うようになって2年が経過した。様々な実践を通して、目指す姿にせまる指導過程の在り方を工夫した指導案を検討すると、導入、展開、終末それぞれの指導過程において、ポイントとなることや配慮するとよいことが、どの単元や単位時間でも共通していることが分かる。

そこで、本年度は、各単元や授業の指導過程ごとで大切にしたい手立てを検討してまとめることとした。このことは、英語が専門ではない教員が単元や授業を構想することを想定し、ポイントになることを明確にすることを意図した。また、New Horizon（東京書籍）以外、他の2社の教科書について、昨年度までに作成した指導案を土台に、指導計画の検討を行った。引き続き、指示の出し方や活動方法について分かりやすい指導案になるよう検討した。視覚教材やワークシートの扱い方、ICTの効果的な活用方法、適切な評価の在り方についても、よりよい指導方法を提案できるようにした。

中学校部会

【Communicative Activity 部会】

NEW HORIZON	NEW CROWN
<ul style="list-style-type: none"> ・1年生 Unit6～11の『指導と評価の計画』作成 ・全 Stage Activity の『指導と評価の計画』作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生 Project の『指導と評価の計画』作成 ・2年生全 Lesson の『指導と評価の計画』作成

単位時間の役割を明確にした「指導と評価の計画」の作成を行った。単位時間の役割を「学習の見直しをもつ時間」「気づき、理解する時間」「整理し、表現する時間」「再構築し、表現を改善する時間」「活用し、学習を振り返る時間」とし、Ways を読んだ方が意図をもった単元や授業の構想ができるよう意図した。

【記録に残す評価（テスト）部会】

本年度は、NEW HORIZON を使用している学校の研究員・研究協議員がテスト問題を作成した。しかし、知識・技能、思考力・判断力・表現力それぞれの問題についての捉えなど読んだ方が、問題作成のヒントを得られるようにした。知識・技能を測る問題では、主としてターゲットとなる英文を聞き取ったり読み取ったりすることを意図した問題を作成した。その際に、目的・場面・状況の有無については問題作成の条件としなかった。一方で、思考力・判断力・表現力を測る問題では、必要な情報、概要、要点を捉えられるかどうか評価する問題を作成した。「目的・場面・状況」を提示することを条件としたが、単元等で扱った言語材料を使用することは条件には入れなかった。

2 事業部の活動

今年度は、参集型の大会を開催することができた。参加申込書と同時に動画を提出していただいたり、スピーチ原稿集や申込関係書類をデジタル化したりと、これまでの手続きをスムーズかつ簡易的なものにした。これにより、運営側と参加側とが負担なく進めることができた。また、これらのシステム構築のために地区大会で実施し、有効なものであることを確認できた。何年ぶりの参集型の開催ということで、課題点や確認事項などがあったが、今後も事業部で検討し、来年度につなげていきたい。参加人数については、1校当たりの参加可能人数を制限しているため、コロナ以前に比べると少ないが、参加中学校については、8割～9割程度の数まで戻ってきている。より多くの希望者が参加できるよう運営方法については今後も検討していきたい。

各地区大会及び県大会でお手伝いただいた先生方が柔軟に対応してくださったおかげで、新たな開催方法でも無事に大会を終えることができた。今後に向けても、運営側や審査員、参加者など誰にとっても分かりやすいスピーチコンテストになるようにしていきたいと考えている。

県内版ワークブックの作成については、今年度新たに「絶対評価プリント」の岐阜県版を作成した。中学校の研究部長にも協力してもらい、記録に残す評価部会で討議していること反映させた。具体的には、思考力・判断力・表現力を測ることに特化した問題を年間3回分実施できるように、3回分のプリントを付け加えた。来年度から、県内で使用が可能となっている。

3 来年度(令和5年度)の活動計画(案)

4月22日(土) 第1回常任委員会及び第1回G長会

5月17日(水) 第1回代議員会(リモート開催)

5月20日(土) 第1回研究協議員会

6月21日(水) 第2回研究協議員会

8月 各地区でのスピーチコンテスト

18日(金)岐阜地区 17日(木)西濃地区 17日(木)美濃地区
21日(月)可茂地区 18日(金)東濃地区 18日(金)飛騨地区

8月26日(土) 英語弁論大会準備委員会

9月23日(土) 第42回岐阜県中学校英語弁論大会 予備日:9月30日(土)

※会場は、岐阜女子大学です。

10月26日(木) 第3回研究協議員会

12月 9日(土) 第4回研究協議員会

1月 6日(土) 第2回G長会

2月27日(火) 第2回代議員会(リモート開催)

※ 日程は、現段階での案ですので、来年度に向けて変更の可能性あります。

※ 4月に常任委員会を開き、令和4年度の研究テーマと研究内容、事業部の活動について、正式に決定します。

4 代議員の皆様へお願い

- ・代議員の皆様が学校へ届いた Ways は、資料中にあります配付数一覧を参考に各学校へお配りください。
- ・Ways は会員がいない学校にも1冊配布いたします。
- ・Ways に過不足があった場合は関市立緑ヶ丘中学校(0575-22-5005)長瀬までご連絡ください。
- ・新年度になりましたら、みなさんの元へ主務者より「新年度の代議員」と「研究協議委員」を報告いただくメールが届きます。今年度の代議員である皆様は、期日までに報告いただくようお願いします。移動などで学校が変わられる方につきましては、同じ学校内でどなたかに引継ぎ、必ず報告が主務者のところまで届くようお願いいたします。

一年間お疲れさまでした。今後ともよろしく願いいたします。

令和4年度 学校別会員数一覧①(会員がいない学校にも1冊ずつWaysが届くようにしています)

学 校 名	会員数	学 校 名	会員数	学 校 名	会員数	学 校 名	会員数	
岐阜市	岐阜市	岐阜市	岐阜市	岐阜市	岐阜市	岐阜市	岐阜市	
岐阜小	3	岐阜清流中	3	八木山小	4	東小	1	
明郷小	1	岐阜中央中	2	陵南小	2	西小	1	
徹明さくら小	2	本荘中	4	各務小	1	北小	1	
白山小	1	梅林中	2	蘇原第一小	2	笠松小	3	
梅林小	1	加納中	4	蘇原第二小	5	松枝小	1	
華陽小	1	長森中	5	中央小	1	下羽栗小	2	
本荘小	3	長良中	3	那加中	5	岐南中	5	
日野小	1	島中	4	桜丘中	3	笠松中	5	
長良小	2	岩野田中	3	稲羽中	2	羽島郡	北方小	2
島小	1	精華中	6	川島中	4	本巣郡	北方西小	1
三里小	3	藍川中	3	鵜沼中	6	北方南小	3	
鷺山小	1	三輪中	3	緑陽中	2	北方中	4	
加納小	2	岐北中	2	蘇原中	7	興文小	1	
加納西小	1	厚見中	2	中央中	6	東小	4	
則武小	2	青山中	3	高富小	3	西小	3	
長森南小	1	陽南中	5	富岡小	1	南小	4	
長森北小	3	藍川東中	2	梅原小	1	北小	3	
常磐小	2	岐阜西中	5	大桑小	1	日新小	2	
木田小	1	藍川北中	2	桜尾小	1	安井小	2	
岩野田小	3	長森南中	2	伊自良南小	1	宇留生小	1	
黒野小	2	東長良中	4	伊自良北小	1	静里小	3	
方県小	1	境川中	6	美山小	1	綾里小	1	
茜部小	3	草潤中	3	いわ桜小	1	江東小	3	
鶉小	4	足近小	1	高富中	4	川並小	1	
七郷小	1	小熊小	1	伊自良中	2	中川小	10	
西郷小	2	正木小	4	美山中	3	小野小	6	
市橋小	1	竹鼻小	3	穂積小	2	荒崎小	3	
岩小	1	中央小	6	本田小	1	赤坂小	2	
鏡島小	1	福寿小	1	牛牧小	2	青墓小	1	
厚見小	1	堀津小	1	生津小	4	牧田小	1	
長良西小	2	中島小	1	南小	3	一之瀬小	1	
早田小	3	羽島中	5	中	1	多良小	2	
且格小	1	竹鼻中	4	西小	1	時小	2	
芥見小	4	中央中	4	穂積中	6	墨俣小	2	
合渡小	2	中島中	2	穂積北中	4	興文中	2	
三輪南小	3	桑原学園	1	巣南中	4	東中	6	
三輪北小	2	那加第一小	2	本巣小	1	西中	3	
網代小	1	那加第二小	2	外山小	1	南中	1	
城西小	2	那加第三小	1	弾正小	1	北中	2	
藍川小	1	尾崎小	1	真桑小	2	江並中	2	
長良東小	3	稲羽西小	1	席田小	3	赤坂中	4	
長森西小	3	稲羽東小	1	土貴野小	1	西部中	7	
芥見東小	3	川島小	5	一色小	2	星和中	5	
岩野田北小	2	鵜沼第一小	1	本巣中	1	上石津中	3	
長森東小	2	鵜沼第二小	5	真正中	5			
柳津小	2	鵜沼第三小	3	糸貫中	4			
岐阜大学教育学部 附属小中学校	6	緑苑小	2	根尾学園	2			

